



《NEWS》

お知らせ!

■遺跡発表会を開催しました

7月23日(土)に第9回となる遺跡発表会を開催しました。今回は国立歴史民俗博物館の秋山晋作助教授に古代印波国の古墳について講演していただき、暑いなか多くの方が聴聞にこられました。

講演

秋山晋作助教授「古代印波国の古墳文化とその特色」

発表遺跡

吉見稲荷山遺跡 (佐倉市) 縄文時代

松ノ木台遺跡 (富里市) 縄文・古墳・平安時代

大竹林畑遺跡 (成田市) 古墳～奈良・平安時代

誌上発表

本佐倉城跡 (東光寺ビヨウ) (佐倉市) 中世



《ご案内》

■最新出土考古資料展

第9回遺跡発表会に伴い、当センターの考古資料展示室では上記発表3遺跡の出土遺物を展示する「最新出土考古資料展」を12月28日(水)まで行っておりますので、ぜひご来場ください。開館時間9:00～16:30。土日祝祭日閉館。入場無料。



《成田市》

東和泉城跡 (中世)

大竹井戸作遺跡 (奈良・平安・中世)

南園護台遺跡 (奈良・平安時代)

《佐倉市》

本佐倉城跡 (中世)

《印西市》

道作古墳群 (旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代)



道作古墳群

《室内作業》

こっちもやっています!

《本部》

佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133

大竹井戸作遺跡 (成田市 奈良・平安・中世)

南園護台遺跡 (成田市 奈良・平安時代)

吉見稲荷山遺跡 (佐倉市 縄文時代)

六崎外出遺跡 (佐倉市 弥生・古墳時代)

白井屋敷跡遺跡 (佐倉市 弥生・奈良・平安・中世)

前原No.2遺跡 (四街道市 縄文・奈良・平安時代)

木戸場遺跡 (四街道市 旧石器・縄文時代)

東畑遺跡 (印西市 縄文・中世)

北大堀遺跡 (酒々井町 奈良・平安・中世)

向台遺跡 (栄町 古墳・奈良・平安時代)

《佐倉南統合調査室》

佐倉市岩富町538-1 TEL. 043-498-0765

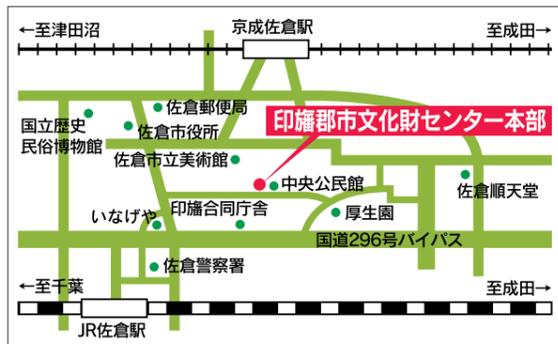
宮内井戸作遺跡 (佐倉市 縄文・古墳時代)

西御門荒生遺跡 (C・D地区) (佐倉市 旧石器・縄文・奈良・平安時代)

西御門明神台遺跡 (佐倉市 旧石器・縄文・奈良・平安時代)

《おしらせ》

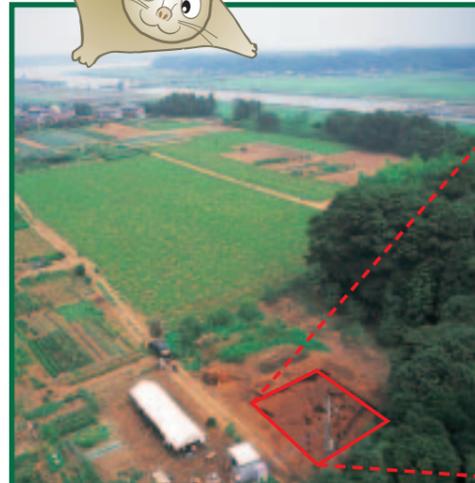
※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



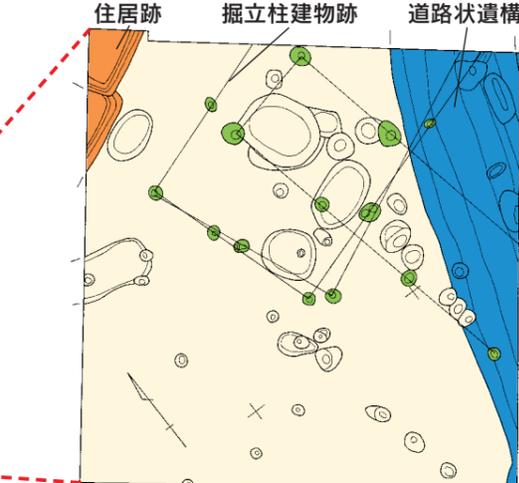
発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 TEL. 043(484)0126(代) FAX 043(485)9871 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/i/



さくらしかくらいさんのうたいいせき  
佐倉市角来山王台遺跡



【写真1】遺跡から印旛沼を望む



【図1】遺構配置図 (S=1/200)

角来山王台遺跡は佐倉市白井地区に所在し、印旛沼を近望できる標高約27mの台地上に位置しています。発掘調査は携帯電話用の無線基地局を作る前に実施されたため11m四方の狭い調査区でしたが、奈良・平安時代(8～9世紀代)の住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、土坑7基、道路状遺構1条などが見つかりました。特筆すべき成果には、土坑から出土した多数の遺物と道路状遺構の発見が挙げられます。



【写真2】近畿地方周辺からもたらされた土師器甕

検出された土坑の中には墓と想定されるものがあり、多くの土器の他に、斧や釘、楔などの鉄器類や東海地方で製作された灰釉陶器などが出土しています。特に当時宮都が所在していた近畿地方周辺で作られたハケ調整された土師器甕が出土したことは注目されます。(写真2)この遺物の出土は、平安時代に物資が搬入された事実を示すと共に、人々が往来していたことが分かる好資料です。

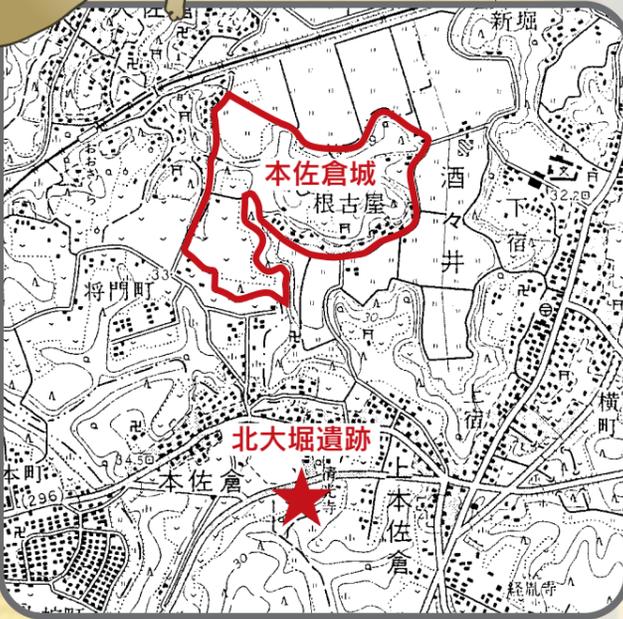
また、道路状遺構の発見は当時の交通網を考える上で重要です。道路状遺構はその一部を確認しただけですが、幅3m、深さ50cm程で、南南西から北北東の方向に伸びています。(図1参照)



【写真3】道路状遺構を歩く

住居などの建物とは向きが違うので、より新しい時期(10世紀代か)に作られた可能性があります。底面には硬く踏みしめられた痕跡があることから、多くの人々がこの道を利用していたことが分かります。ではこの道路状遺構は近隣の集落へと向かう道だったのでしょうか?道路を辿ってそのまま北の方向に進めば印旛沼に下りることも可能ですので、想像を逞くするならば、沼のほとりの船着場などへ向かう道路であったとも考えられます。

# 酒々井町北大堀遺跡



北大堀遺跡は千葉県酒々井町本佐倉字北大堀一帯、国道296号線バイパス沿いに広がる遺跡です。この遺跡の北約1kmには中世の下総国を支配した千葉氏の居城である本佐倉城があり、近隣にはそれに関する中世の遺跡が多数存在します。本遺跡も本佐倉城下の中世の様子を伝える遺跡であり、これまでも数回の調査が行われてきました。今回の調査は店舗建設のために720㎡の発掘調査を当センターが行い、やはり本佐倉城に関連する多くの発見がありました。

写真1は今回の調査で検出した幅約3m、深さ2mの堀です。薬研堀と呼ばれる断面がV字状の空堀です。調

査区の東端から西端まで続いており、途中、通路として一部を掘りのこしています。この堀は北に位置する本佐倉城の南側の防御施設としての役割を担っていたことが窺われます。この堀からは数多くの遺物が出土しました。写真2はカワラケと呼ばれる素焼きの器の出土状況です。ほとんど壊れていないものが大量に捨てられている様子が見えます。これらは繰り返し使われず、現在の紙コップのように使い捨てて、饗宴・神事などの際に用いられたと考えられています。近くで大きな宴会が行われたのでしょうか。おもしろいことにカワラケの底や外面に墨で文字が書かれているものが多く存在しま

すが、数字と思われるものが多いようです。他にも堀の中には様々なものが廃棄されています。写真3は馬の骨の出土状況です。推定4～7歳のメスで堀底から出土しました。また、当時の人々が食べたと思われる貝殻、皿や甕のかけら、鍛冶を行った際の鉄くずなど実に様々なものが出土し、当時の人々の暮らしを伝えてくれます。

これらの他にも今回の調査では中世より古い奈良・平安時代の住居などが検出されています。今回の調査は北大堀遺跡全体としては僅かな面積の調査でしたが、これまでの発掘調査成果と併せて中世本佐倉城下の景観を復元できる重要な成果が得られたものと思います。



写真1



写真2



写真3

